

造も盛であるが、日本の漁業家で、此の方面に活躍してゐる人が少くない。

米國の東海岸及びメキシコ灣は牡蠣の養殖が盛に行はれてゐる。

鑛業の盛なのは米國、カナダ、メキシコであるが、特に米國は各種の鑛物に富み、鐵、石炭、石油、銅の産額はいづれも世界第一である。カナダはニッケルに於て世界第一の産地であり、メキシコは世界第一の銀産地として名高く、石油に於ても世界屈指の産地である。

米國で石油の多く産するのは中央平原の南西部(テキサス州、ルイジアナ州、オクラホマ州等)及び太平洋岸のカリフォルニア州で、世界石油總産額の約三分の二を産出する。又石炭の主産地はアパラチヤ山脈の連亘する地方であり、鐵鑛の主産地はスベリオル湖附近である。随つて此の地方の鐵鑛は主として五大湖の水運を利用して石炭の主産地方に送つて製鍊せられるのであるが、アパラチヤ山脈の東西兩側は米國最大の工業地帯で、製鐵の外、機械の製造、紡績、製粉、製材、造船、自動車及び飛行機などの製造等殆んどあらゆる工業が行はれてゐる。

かくの如く米國は各種の産業が盛であるから、貿易も頗る盛で、其の年額は百二十億圓を超え、世界中英國の貿易高(二百十餘億圓)に及ばないだけである。

ニューヨーク(紐育)はハドソン川の最下流に臨める大市街で、人口は約七百萬、兩米洲中第一

の都會である。市は大厦高樓が多いので名高く、河岸には無數の棧橋が櫛比して内外國の商船を送迎し、貿易は殷賑を極めてゐる。シカゴはミシガン湖の南西岸にある人口約三百六十萬の大都市で、農産物及び家畜の大集散地であり、農具及び肉類の罐詰製造を始め各種工業も行はれ、又水陸交通の要地である。

フイラデルフィヤは西曆一七七六年七月四日(昭和十四年より一六三年前)米國が獨立を宣言した時、其の宣言書を認めた獨立閣及び獨立宣言を民衆に報ずる爲に打鳴らした自由の鐘などが現存するので、史上有名な處であるが、今は造船、精油、機械等の製造の盛な工業地。人口は二百萬を超える。次にワシントン。人口五十萬内外の都市であるが、米國の首府で國會議事堂、白聖館(大統領の官邸)など壯麗な建築物が多く、我が大使館の所在地である。市は全く政治的都市で、商工業上誇るべきものはない。

カナダの首府はオタワといひ、英國から派遣する總督の居る處。木材の集散地で製材業及びパルプ製造の盛な處である。

交通 北米大陸中、鐵道の普及してゐるのは米國とカナダの南部で、要地は皆鐵道で連絡してゐるが、特に其の分布の稠密なのは米國の東半部である。尙此の大陸を横斷して太平、大西兩洋岸

を連絡する幹線がカナダに二條(カナダナショナル鐵道、カナダ太平洋鐵道)、米國には六條(大北鐵道、北太平洋鐵道、シカゴミルウォーキー鐵道、ユニオン太平洋鐵道、サンタフェ鐵道、南太平洋鐵道)あるといふ次第。米國は世界第一の鐵道國で、世界に於ける鐵道總延長の約三分の一(四十一萬軒に近し)を占めてゐる。尙、米國では自動車、航空機の利用が極めて盛で、此の點に於ても世界各國に對して誇るべき資格を備へてゐる。

外國航路は大西洋方面のニューヨーク、フィラデルフィヤ、ボルチモア、ニューオルリヤンス、ガルベストン、ボストン及カナダのモントリオール等の諸港から歐洲の諸港に通ずるものが最も多く、船會社は競うて此の大西洋航路に豪華船を配置してゐる。又太平洋方面のカナダのバンクーバー(晩香坡)及び米國のシヤトル、サンフランシスコ(桑港)、ロスアンゼルス等の諸港から東洋及び南洋方面の諸港に至る航路が開いてある。

パナマ運河は米國が同名の地峽に開鑿した運河で、カリブ海のリモン灣から、太平洋のパナマ灣に至る延長は約八十軒あるが、其の一部分は天然の湖水を利用したのである。地形、地質の關係上スエズ運河のやうな水平式を採用することが出来なかつた爲、運河の内三箇所に水門(閘門)を設けて、通過船艦を上下させた上、通航させるやうにしてある。此の運河の開通したのは大正三年八月十五日で、此の日米國の汽船アンコンが始めて通過したが、所要時間は九時間であつた。日本船で此の運河を通過したのは、日本郵船會社の徳島丸であるが、同船はガルベストンで綿を積んで横濱に歸る途中、同年十二月九日此の運河を通過したのである。それは兎に角、此の運河が出来た爲、太平洋から海路大西洋に向ふのに、南米の南端を迂迴する必要がなくなり、世界の交通上に大影響を與へた。

我が國との關係 我が日本郵船及び大阪商船など 汽船は北米の太平洋岸及び大西洋岸の諸港に定期に航海し、又彼の地の汽船が我が國へも航海してゐて、彼我の交通、貿易が盛であるが、特に日米貿易が盛で、昭和十二年の貿易額は十九億圓を超えた。米國から我が國へ輸入する主要品は綿、鐵、鐵材、石油、機械、自動車、銅、木材、パルプ等で、我が國から米國に向ふ主要輸出品は生絲、陶器、罐詰、蠟詰などで、我が國からの輸出額よりも、米國からの輸入額の方が遙に多い。

昭和十二年に於ける米國在留日本人は約十一萬五千人であるが、其の内約十萬一千人は太平洋沿岸地帯に在留し、其の多くは農業を營んでゐる。

挿畫の解説

ナイヤガラの瀾 エリー湖からオンタリオ湖に向つて流れるナイヤガラ川の長さは約六十軒あるが、エリ

1 湖の排水口から約三十六軒下つた處にナイアガラの瀧がある。瀧は二つに分れてゐるが、それは河水が將に高さ五十米内外の懸崖を落下しようとする處にゴート島がある爲である。其のカナダ方面の瀧をカナダ瀧(一名馬蹄瀧)といひ、米國側のをアメリカ瀧といふ。圖中幅の廣く見えてゐる方がカナダ瀧で、手前の方がアメリカ瀧である。

合衆國に於ける小麥の收穫 此の挿畫は廣大な小麥畑の小麥の穂を機械で刈取り、更に其の實をこきとる所を示すもので、大農組織の農業であるから、機械力利用の盛なことを示したものである。

綿の收穫 此の挿畫は棉花採取の有様を示すもので、籠の中の白いものは棉花である。

製材の集積 此の挿畫の場處が何處であるか判定し難いが、山と積まれた製材の壯觀を示すもので、製材業の盛なことを知るに足るものである。

乾ぶだう 葡萄を長く貯蔵し、又遠距離に輸送する便を圖る爲、葡萄を露天で乾燥してゐる有様を示すものであるが、多分米國太平洋岸の葡萄産地の光景を表はしたものであらう。

ニューフォンドランドの漁港 はニューフォンドランド島に於ける漁業の中心にして、同島の首都たるセントジョン港に漁船の網集せる光景を示すものである。

合衆國太平洋岸の油井 はカリフォルニア州の石油業地に於ける林立せる油槽と油槽とを示したもので、場處は多分ロスアンゼルス附近であらう。

ニューヨーク の挿畫は大層高樓の多い同市の光景の一端を示すもの。圖中の水面はハドソン川に注げる

イースト川、橋はブルクリン橋(全長約一九八〇米)で、市内のマンハタン區とブルクリン區とを連絡する大吊橋の一つである。

ワシントン 此の挿畫は米國の首府ワシントン市なる國會議事堂(圖には見えぬ)前から西に向つて延びてゐる大公園附近を示すもので、堂々たる建築物の多いことが判るが、圖中特に高く聳えてゐる白塔にはワシントン記念塔である。塔は純白な大理石造りで、高さ五五五呎(約一六八米)。見物人は中にあるエレベーターで其の頂上に登り、四方に開いてゐる窓から全市を展望することが出来る。

サンフランシスコ港 は米國太平洋岸第一の良港で、東洋に對する貿易の焦點である。其の市街はサンフランシスコ灣の南半を擁する半島の北端部を占め、灣を隔て、其の東方なるオークランド市と相對してゐる。圖中の橋は灣内のゴート島を経て兩市を連絡する大長橋である。

パナマ運河 については既に本文中に述べたが、此の圖の右下隅はミラフロレス水門。湖水を隔て、斜左に見える水門はベドロミグエル水門である。水門を通過する時、船艦は水の動搖による兩岸の破損を避ける必要上自力を用ひず、水門に平行して走る電車で曳かせて進行するのである。圖中湖水の中に突出せる突堤は、曳船用の電車の通路の一部である。

合衆國太平洋岸に在住する我が國人の農園 米國カリフォルニア州の海濱地帯には、日本人の農業經營者が多いが、圖は其の果樹園を示すもので、廣い園内に日本流の木造家屋や水槽が見えてゐる。

第十二 南アメリカ洲(南亞米利加洲)

區域 南アメリカ大陸と附近の島嶼とを合せて南アメリカ洲といふ。其の大陸はパナマの地峡によつて北アメリカ大陸に連り、其の輪廓はほとり三角形を呈してゐる。洲の面積は約一千九百萬方呎で、人口は約九千萬である。當大陸の北東部なるギアナは英、佛、蘭三國の分領する所となり、又南端に近いフォークランド島及び南ジョージヤ島は英領であるが、其の他は分れてコロンビヤ、ベネズエラ、エクアドル、ペルー、チリ、ボリビヤ、パラグアイ、ウルグアイ、アルゼンチン、ブラジルの十共和國になつてゐる。

地勢 南米大陸は大體西部の山地、東部の高臺、中部の平原に分れてゐる。西部の山地の中軸をなすのはアンデス山脈で、近く太平洋を南北に走る高峻な山脈で、最高峯アコンカグア山(七〇三五米の休火山)は兩米第一の高山である。尙此の山脈中には火山が多く、エクアドルのコトバクシ(五九四三米)の如きは世界最高の活火山である。さて此の山脈の南部は幅が比較的狭いが、北に進むに従つて廣く、處々に高原がある。ボリビヤとペルーの國境にあるチチカカ湖附近が其の最も著しいもので、南米のバミルとか南米の西藏といはれてゐる。

東部の高臺はブラジル高臺で、頗る廣い高臺であるが、其の高さはアンデス山地よりも遙に低い。大陸の中央部は北部のギアナ山地の外は大體平原で、アマゾン、ラプラタ等の大河が大西洋に向つて流れてゐる。どちらも水量が多く、又流れも緩かであるから、舟行の便があるが、殊にアマゾン川は「南米の地中海」といはれる大河。其の長さはミシシッピに及ばないが、水量の多いことは世界第一で、大洋航行の大汽船が川口から約千六百呎の上流まで溯行し得る。

氣候、産業 アマゾン河口は赤道直下に當り、本洲の北半は熱帯に屬し、酷暑多濕の地であるから、健康に適せず、産業も發達してゐない。アマゾン流域の大森林が左程利用せられず、ゴムの木からゴム液を採集するに止まつてゐるのも其の爲である。近年此の流域の開拓が始められてゐるが、それは極一小部分に過ぎない。併しブラジル高臺は熱帯中に屬する部分も土地が高い爲、暑さも酷しからず、農業、牧畜及び鑛業が行はれてゐる。

太平洋方面のアンデス山脈の高原地方では鑛業及び牧畜が行はれてゐる。

本洲の南半は温帯で氣候も地味もよい爲に農業、牧畜が盛で、ブラジルの如きは諸外國からの移民も多く、日本からの移民も十九萬人を超えてゐるが、其の大多數はコーヒーの栽培に従事してゐる。由來ブラジルは世界に於けるコーヒー總産額の約八割を産する國で、サントス港から盛に海外

に輸出せられてゐる。

アルゼンチンは小麦の産額が多く、羊、牛等の牧畜も盛に行はれ、羊毛、肉類、小麦は首府ブエノスアイレス港から盛に輸出せられる。此の港はラプラタ川の河口に臨み、人口二百三十萬を超え、南米第一の大市街である。

交通、都邑 南米の産業、貿易の發達に伴つて、海上交通も發達し、特に歐洲及び北米との間には船舶が頻繁に往來してゐるが、我が日本郵船及び大阪商船兩會社も南米航路を開いてゐる。鐵道の分布はブラジルの南部及び、アルゼンチンの東部に著しく密であり、ブエノスアイレスからチリのバルパライソに通ずるアンデス横斷鐵道は同山脈中海拔約三千三百米の地點にある長さ三千餘米の國境隧道を経てチリに入るのである。尙近年本洲の要地と北米、歐洲との間には航空路も開かれた。

ブラジルの首府リオデジャネーロは風光明媚の良灣に臨み、人口凡そ百七十萬。綿、砂糖などの輸出が多く、我が大使館の所在地である。次にサンパウロはコーヒーの集散地として名高く、アルゼンチンの首府ブエノスアイレス及びチリの首府サンチャゴ(人口約七十萬)には我が公使館がある。我が國との關係 本洲大西洋岸のリオデジャネーロ、サントス、ブエノスアイレス等の諸港及び

太平洋岸のバルパライソ及びベルーのカイヤオと我が神戸、横濱との間に我が日本郵船及び大阪商船の汽船が定期に往來してゐて、貿易も次第に盛況に向ひつゝある。

次に本洲に於ける我が移民在留者の總数は二十三萬人に近いが、其の最も多いのはブラジルで、其の數は十九萬人を超え、之に亞ぐのはベルーで、二萬人を超えてゐる。

挿畫の解説

アンデス山脈 は高峻の點に於てはヒマラヤ山脈に及ばないが、長さに於てはヒマラヤにまさる雄大な山脈である。圖は飛行機が同山脈を横斷しつゝある所を示すものである。

アマゾン川沿岸の密林 此の挿畫はアマゾン川流域の熱帶性密林の状態を示すもので、氣根を垂れてゐるものや、大木に寄生してゐるものらしいものも見えてゐる。

コーヒーの收穫 ブラジルのコーヒー畑に於てコーヒーの實を取りつゝある有様を示すもので、働いてゐる人は皆日本人らしい。

チリの銅山 何處の何といふ銅山か判らないが、チリは銅の産額に於ては米國に亞ぎ、世界第二の銅産國である。

サントス港 はコーヒーの積出し及びブラジル移民の出入の多い港である。圖は之が爲に榮えてゐる港市の光景を示すものである。

ブ・エ・ノ・ス・ア・イ・レ・ス。は南米のバリーと稱せられる大市街で、アルゼンチンの首府であると同時に、當國第一の貿易港である。圖は其の盛況の一端を示すものである。

リ・オ・デ・ジ・ャ・ネ・イ・ロ・港。は其の風光明媚の地で、世界三景の一に數へられてゐる。此の挿畫を見ても其の然る所以を察することが出来る。

南米に於ける我が國人の村。此の挿畫が南米の何處であるかは判定しかねるが、日本流の家屋と人馬、荷車などが示してある。

第十三 大洋洲

區域 大洋洲は世界最小の大陸たるオーストラリア(濠洲。約七七〇萬方呎)と南太平洋中なるニュージーランド島、バプア島等を始め大小無數の島嶼とに對する總稱で、其の面積は九百萬方呎に近くて、歐洲よりも狭く、人口は約一千萬。其の中約七割は白人で、其の大多數は濠洲に住んでゐる。

本洲には獨立國は全くなく、大部分は英領であるが、蘭領(バプア島の西半部)、佛領(マルキーズ、ロー、タヒチ、ソシエテ、ニューヘブライズ、ニューカレドニア等の諸群島)米國領(ハワイ諸島、ミッドウ

エー、グアム、サモア諸島の一部)もあり、又我が委任統治の南洋もある。

オーストラリア 濠洲大陸の東部には海岸に沿うて南北に連る山脈(オーストラリアアルプ山脈)があり、西部には高臺があり、中部には比較的に低い低地が挟まつてゐる。中部以西は雨量が極めて少く、寒暑の差の酷しい處で、大部分は沙漠又は雜草地になつてゐて價値の低い地方であるが、西部の高臺の南部には金産地がある爲、都會もあり、港も出來てゐる。

東部の山脈の内外兩側は、相當に雨量もあつて、溫和な氣候に屬し、地味もよいので、農業、牧畜が盛である。殊に小麦の栽培、羊、牛の牧畜が最も盛で、羊毛は世界第一の産額を示し、小麦、肉類と共に多く英本國に送られる。

尙、山脈の南部地方には石炭、金などの産地もあつて、其の産額が多い。

隨つて當大陸中、最も産業が盛で、交通の便もよく、都邑の多いのは南東部で、シドニー、メルボルンは本洲の二大都市、どちらも人口は百萬を超へ、又羊毛、小麦、金、石炭などの積出しの多い港である。我が日本郵船會社の濠洲航路船はメルボルンを終點としてゐるが、我が國からは絹織物を送り、濠洲からは羊毛、小麦を輸入してゐる。

濠洲の首府はカンベラといつて、シドニーの南西方にあるが、之は單なる政治都市で、人口も多

本洲に屬する太平洋中の諸島中、最も大きいのはバブア島で(蘭領以外は英領と濠洲の委任統治)で、之に亞ぐのは英領ニューギランド島である。其の他は大抵火山島か珊瑚島で、面積も狭く、住民も未開のものが多くて、産業も發達してゐない處が多い。併し太平洋の交通上、又政治上、軍事上大切な島が少くない。

ニューギランドは南北二島より成り、どちらにも山地が多いが、北島には火山が多く、南島には高山が多くて、氷河のある山もある。平地の気温は大體温和で、農業、牧畜に適し、羊、牛などの牧畜が盛で、羊毛及び凍肉(冷蔵肉)などの輸出が多い。

ハワイ諸島は面積約一萬七千方杆、我が四國よりも稍狭い。もとは獨立國であつたが、明治三十一年八月十二日米國の領土となつた。全土熱帯中にありながら、海洋の影響で、苦熱を感ずることなく、年中溫暖な健康地であり、地味も肥沃で、甘蔗の栽培が盛であり、又製糖業も盛である。住民の總數は四十萬内外、其の中約十五萬人は我が國人で、總數の約四割を占め、多くは甘蔗の栽培に従事してゐる。首府ホノル、はオアフ島の南岸にある良港で、濠、亞、米三洲交通の要路に當り、我が國の汽船の寄港地の一つである。



ハワイの製糖工場と邦人住宅

挿畫の解説

オーストラリアに於ける牧羊 牧場に無数の羊が群集せる有様を示すもので、騎馬の人は其の監視人である。

オーストラリアの金山 濠洲は世界屈指の金産地で、其の産地は西部の高臺地方及び南東部の山岳地方にもある。此の挿畫が何處であるかは判然しないが、多分南東部のブロークンヒル鑛山であらう。

シドニー港 シドニーはジャクソンに臨める濠洲第一の大港市で、世界三景の一と稱せられる勝景地。此の挿畫によつても其の然る所以を察することが出来る。圖中の鐵橋はシドニー市本部と北海岸とを連絡するシドニー橋である。

ニューギランドの火山 はニューギランド北島の西岸、中央より稍南に聳ゆるエグメント火山(約二五二一米)を示すものである。

ホノルル港は太平洋航路に於ける重要寄港地で、我が國の汽船も常に出入する。我が横濱から八日目或は九日目に達する。港は元來天然の良港たる上、築港工事が施されて、便利な港になつてゐる。圖中に多くの船渠が見えてゐる。

第十四 世界と日本

六大洲 世界の陸地は大體分れて六大洲となつてゐる。其の中アジア、ヨーロッパ二洲は數千年の昔から開けた處で、現在世界の人口の約八割は此の二洲に住んでゐる。

アジア洲は歐洲よりも遙に廣く、釋迦や基督やマホメットなど世界の大宗敎家の出た處であるが、大沙漠や大山脈などが人の交通を妨げた爲と見え、洲内相互の往來が不便であつた時代が長かつたから、住民相互の智識の交換も行はれ難く、競争心も盛でなかつたらしく、文明は歐洲諸國よりも後れたのみならず、洲の大部分は歐洲諸國の領地となつて獨立國の數が少く、殊に現在國勢の盛なのは我が日本だけである。爲に今や我が國は東亞の秩序建設の爲に舉國一致興亞の目的に向つて邁進してゐるのである。

歐洲は英、佛、獨、伊等文明國の集まつてゐる處で、常に國々の間に競争もあり、嫉視反目もあつて、動もすれば戰亂の起り易い處。其の動靜は世界各國に大影響を及ぼす處で、今も大戰亂が起つてゐる。今後どう推移するかは世界の注目の的になつてゐる。

南北兩米洲は新大陸と呼ばれ、西曆一四九二年コロンブスが其の一部を發見してから後、歐洲及びアジア洲等の各地から移住するものが多くなり、今では多くの獨立共和國が出来てゐるが、國勢の最も盛なのはアメリカ合衆國で、嘗ては世界第一を以て任じてゐた英國の如きも其の鼻息を窺はなければならなくなつて來た。それは米國は天然資源の豊富なこと、各種産業が著しく發達してゐる爲である。

アフリカ洲、大洋洲の大部分は英、佛の分領地で、米國の領地は左程廣くはない。

三大洋 中汽船の往來の最も頻繁なのは大西洋で、世界の最優秀船を始め、世界商船の過半は同洋上を往來してゐる。

印度洋は歐亞兩洲連絡上、海上交通の要路で、スエズ運河の開通以來、特に船の往來が盛になつた。

太平洋は世界最大の海で、アジア洲、大洋洲、兩米洲を連絡する海上交通の要路であり、パナマ

運河の開通後、一層其の重要性を加へることになった。

我が國は世界交通上の要路に當り、國勢も次第に盛大になつて、世界に於ける一重要國になつて居り、條約國の首府には大使館或は公使館を置いて、國際關係の圓滿親善を圖り、世界平和の維持に努めて居るのである。

願れば我が國は開國以來まだ八十餘年に過ぎないが、我が商船は我が商品を積んで世界に進出し、通信、海運、貿易等に於て世界に重きをなしてゐる。併し天然資源に富み且金融上の大勢力を有する米國、英國と肩を比べて行くことは容易の業ではない。國民は常に緊張して國力の充實に努力しなければならぬ。

地球の表面

地球の大きさ 地球の形は球に近い楕圓體で、完全な球ではない。即ち東西の直径は約一二七五五軒、南北の直径は約一二七一二軒であるから、其の差が四三軒ある譯である。所が地球の表面にはエベレストのやうな高山があり、又深い海もあるから、人によつては、地球が大體は多少扁平な

球状をなしてゐるとしても、其の表面に高低凹凸があるのであるから、其の形は金平糖こんぺいとうの如しといつた方がよいと考へるかも知れない。

けれども地球の表面の高低は、其の大きさに比べて見ると、問題にならぬ程僅かなものである。今地球の直径を一尺とすれば、世界最高の高山も一分の十四分の一にしかならないのであるから、蜜柑の皮の表面の凹凸程にもならない譯である。

陸地と海洋 地球の表面は陸と海とに分れて、海の方が陸地よりも遙に廣い。もつとも地球の南北の端に近い嚴寒の處は、陸があつても、年中氷雪に蔽はれてゐて、何處が海と陸との界か判らない場合もあるから、極精密なことは判らないが、大體地球の面積（五億一千方軒）を十とすれば、大體陸地は（一億三千六千方軒）は三、海は（三億七千方軒）七に當ると思へばよい。

其の陸地は六大洲に分けられ、海は三大洋と南北兩極海とに分けられてゐるが、兩極海は細かに調査することが出来ない。

經線、緯線 地球の南北の直径を地軸といひ、其の兩端を南極、北極といふ。地球の表面に、南北兩極を結びつける半圓周を描いて、之を經線或は子午線といふ。實際地球の表面にさういふ線がある譯ではないが、地球の表面に於ける位置を示す便宜の爲に、人間が假りに拵へる線である。

又、極から等距離にある地點を連ねる横線を假想して、之を緯線といふのであるが、之も經線と相俟つて地表の位置を示す爲に、人が假りに設ける線である。緯線の中、地球を眞二つに等分する緯線を赤道といひ、赤道によつて地球を眞二つに分けて考へる場合に、北なるを北半球、南なるを南半球といふのであるが、地表を陸と水とに分ける時、陸地の大部分は北半球の表面にあるのである。

經度、緯度 經線は英國ロンドンのグリニチ天文臺を通過するものを假想して、之を零度とし、之を本として東の方は東經何度、西の方は西經何度と數へ、各々百八十度で終ることにしてある。随つて東經百八十度と西經百八十度とは同一の線になる譯で、其の線は太平洋の中程を通ることになる。

緯線は赤道を零度とし、之より北は北緯何度、南は南緯何度と數へ、各々九十度で終ることにしてある。それ故北緯九十度は北極、南緯九十度は南極になる。經度も緯度も一度を六十分、一分を六十秒に分ける。

地點の定め方 經線は南北の線、緯線は東西の線であるから、地球表面のあらゆる地點の位置は、此の兩線の交叉する處の度數で示すことが出来る。例へば東京市外三鷹村にある東京天文臺は東經

一三九度四四分四一秒の線と北緯三五度三九分一六秒の線との交叉點にあるといへば、その場所が明確に知られるのである。

地圖 地球表面の状態を示す圖を地圖といひ、經緯線を本として實際の大いさを縮寫するのである。然るに地球の表面は球狀の表面であるから、實際の形を其の儘平たい紙面に正確に表はすことは出来ないから、成るべく眞に近いものを書き表すので我慢するより外に道はない。

地圖の書き方には種々あつて、方向を正確にすることを主にするもの、距離乃至面積を正しく表はさうとするものがあつて、經緯線の表はし方がそれと違ふ。それが爲同じ土地を示す地圖でも、書き方によつて多少形が違つたり、面積が正しく表はせない部分も出来るが、それらの事は今俄に理解出来なくてもよい。

地圖では山、川、都會など地表の事物を、眞上から見下した形に描いてあるのが普通であり、又種々の記號によつてそれらの事物を示すのである。

晝夜、四季 地球は地軸を軸とし、西から東に向つて廻轉してゐるが、其の一廻轉に二十四時間かゝる。此の運動を自轉といふのであるが、自轉の際太陽の光を受けてゐる方は晝であるが、其の反對の方は夜である。

然るに、地球は自轉しながら一年かゝつて太陽の周圍を西から東に向つて一廻轉する。此の運動を公轉といふ。地球の公轉する通路を軌道といふが、公轉中地球の地軸は軌道に對していつも二十一度半傾いて居るもので、直角になるやうに立つてはゐない。之が爲に公轉中地球が太陽の直射光線を受ける場處が違つて来る。四季の變化は之が爲に起るのであるが、其のことは「晝夜、四季の表れ方」といふ圖を念入に調べて見ると、理解することが出来るやうになつてゐる。

經度の差による時刻の違い 地球の表面は經度でいへば、東經が百八十度まで、西經が百八十度までであるから、之を合せると三百六十度ある譯である。其の三百六十度ある地球が一廻轉するのに二十四時間かゝるのであるから、一時間には二十四分の三百六十度即ち十五度廻る譯である。それ故に經度十五度の隔たりある甲の地と乙の地との間には一時間の差が出来る。一例をあげると、兵庫縣の明石市は東經百三十五度に當り、臺灣本島と澎湖島との間の澎湖水道の中程は東經百二十度に當り、兩地の間に十五度の差がある。爲に明石市を通る經線の眞上に太陽を見る時即ち明石市の正午の時には、澎湖水道の中程は午前十一時である譯である。併し實際に於ては同じ日本國內でありながら、土地々々で時刻が違つてゐると、通信や交通などの上で、不便であるから、東經百三十五度の經線上に太陽を見る時を、日本國中の正午としてゐるのである。

無論、東京市も明石市と同じ時間を採用してゐるのであるが、假りに東京市だけの時刻を用ひることにすると、東京市は東經百三十九度餘に當るから、グリニチに比べると九時間餘早い譯で、東京の午前九時はグリニチの午前零時頃になる譯である。

赤道以北と以南との季節の違い 四季の變化は赤道の北と南とで反對になる。それは北半球が太陽の直射又は比較的直射に近い光線を餘計に受ける時、南半球は直射に遠い光線を受けるからで、日本の夏は濠洲の冬であり、濠洲の夏は日本の冬である。随つて冬日本を出帆して濠洲に行き、到着後程なく歸るとしても、夏服も用意しなければならぬ。それは航海の途中熱帯といふ暑い處を通過する爲ばかりでなく、到着地が夏であるからである。

氣候帶 赤道附近は年中太陽の直射又は直射に近い光線を受けて、暑さの強い處であるから、赤道から南北各々二十三度半に至る間を熱帯といふ。熱帯は一続きになつてゐるが、赤道以北を北熱帯、以南を南熱帯といふ。次に北極と北緯六十六度半との間及び南極と南緯六十六度半との間は、年中直射に遠い光線を受ける寒い地方であるから、前者を北寒帯、後者を南寒帯といふ。熱帯と寒帯との間は溫帯といふが北半球にあるのを北溫帯、南半球にあるのを南溫帯といふ。溫帯は太陽の直射光線を受けることはないが、寒帯のやうに斜過ぎる光線を受ける處でないから、氣候の大體溫

和な處である。併し氣温は海陸の分布、海流、風向などに左右せられるから、同じ緯度の土地でも、
温度に差のあることは珍しくなす。

大體に於て熱帯は年中暑く、寒帯は年中寒い。然るに温帯は一般に氣候が温和であるから、人類
の生活に適する土地であり、文明國は皆温帯内に起つてゐる。

新小學地理教授書 (尋六) 終

昭和十五年二月一日 初版印刷
昭和十五年二月五日 初版發行

新小學地理教授書 尋六

定價 金參圓貳拾錢

著者 北垣恭次郎
東京市小石川區大塚仲町四十一番地

發行者 藤原惣太郎
東京市京橋區入船町三丁目三番地

印刷者 芦田數夫
東京市京橋區入船町三丁目五番地



發行所

東京市京橋區入船町三番地
振替東京一八五一三番

明治圖書株式會社

大賣

柳原書店

東京 東海堂
東京 文盛堂
東京 北隆館
東京 文林堂

名古屋 川瀬書店
久留米 菊竹金文堂
福岡 大坪惇信堂
金澤 宇都宮書店
長岡 覺張書店

大阪 合資會社 柳原書店

263.6

324

終

